

No title available

Publication number: JP63005800U

Publication date: 1988-01-14

Inventor:

Applicant:

Classification:

- International: *H04R1/28; H04R5/02; H04S5/02; H04R1/28; H04R5/02; H04S5/00; (IPC1-7): H04S5/02; H04R1/28; H04R5/02*

- European:

Application number: JP19860098489U 19860627

Priority number(s): JP19860098489U 19860627

Report a data error here

Abstract not available for JP63005800U

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

Japan Patent Office
Patent Laying-Open Gazette

Patent Laying-Open No.	S63-005800
Date of Laying-Open:	January 11, 1988
International Class(es):	D 06F 58/28

(3 pages in all)

Title of the Invention:	CLOTHING DRYER
Patent Appln. No.	S61-148725
Filing Date:	June 25, 1986
Inventor:	Testuo KAWAI
Applicant:	Matsushita Electric Industries Co., Ltd. (transliterated, therefore the spelling might be incorrect)

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-5800

⑬ Int. Cl.⁴
D 06 F 58/28

識別記号 庁内整理番号
C-8119-4L

⑭ 公開 昭和63年(1988)1月11日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 衣類乾燥機

⑯ 特 願 昭61-148725

⑰ 出 願 昭61(1986)6月25日

⑱ 発 明 者 河 合 哲 夫 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内
⑲ 出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地
⑳ 代 理 人 弁理士 中尾 敏男 外1名

明 細 書

1、発明の名称

衣類乾燥機

2、特許請求の範囲

乾燥運転が自動的に終了した後、衣類を収容する回転ドラムの出口の温度を温度センサーで検知し、前記回転ドラムの出口の温度が設定値の範囲内にあるように、ヒータ回路とモータ回路を制御して、間欠運転を行なうように構成した衣類乾燥機。

3、発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は温度センサーを備えて運転制御する衣類乾燥機に関するものである。

従来の技術

従来この種の衣類乾燥機は、衣類の乾燥度を温度センサーを用いて判断し、自動的に乾燥運転を終了し、ブザー等の報知手段で終了したことを知らせるものが多い。また、衣類のシワ付きを防止するため、乾燥運転終了後、衣類を収納した回

転ドラムのフタをあけるまでモータ回路をたとえば2分間に10秒の割合で間欠的に通電し、回転ドラムおよびファンを間欠運転するように構成している。そして前記乾燥運転終了後にこの間欠運転を行なうか行なわないかは、運転前に使用者が選択できる。

発明が解決しようとする問題点

このような従来の構成では、衣類をあたためる目的で衣類乾燥機を使用した場合、使用者が衣類加温終了後、衣類を取り出さずに回転ドラム内に放置すれば、衣類の温度は最終的に雰囲気温度に等しくなってしまう。

本発明はこのような問題点を解決するもので、使用者が衣類をあたためる目的で衣類乾燥機を使用する場合は、衣類の温度が設定値の範囲内になるように、乾燥運転終了後も制御することを目的とするものである。

問題点を解決するための手段

これらの問題点を解決するために本発明は、乾燥運転終了後、モータおよびヒータを衣類を収容

する回転ドラムの出口の温度に応じて間欠運転および間欠通電するようにしたものである。

作 用

この構成により、使用者が衣類をあたためる目的で衣類乾燥機を使用する場合は、乾燥運転終了後も衣類を保温することができる。

実 施 例

以下、本発明の一実施例について、第1図および第2図を参照して説明する。第1図において6は乾燥機本体であり、内部に衣類を収容し回転搅拌する回転ドラム2を回転自在に設けている。前記回転ドラム2内には、ヒータ1によって加熱された熱風をファン3により導入するようになっている。また前記回転ドラム2の出口部には、前記出口部の温度を検出する温度センサー5を設けている。この温度センサー5で得られた信号により前記モータ4およびヒータ1を運転・通電制御するようにしている。なお図中の矢印は風の流れを示す。

第2図は温度センサー5の時間変化を示したも

のである。時間 t_1 において乾燥運転が終了したとすると、通常の場合は破線で示すように温度センサー5の温度は雰囲気温度 T_2 に近づいていく。使用者が運転前に衣類を保温するコースを選択した場合は、実線で示すように時間 t_2 までの間、モータ4およびヒータ1を間欠運転し、温度センサー5の温度が設定温度 T_1 になるように制御する。たとえば、乾燥運転終了後、2分間に10秒間の割合でモータ4を通電し、その際、温度センサー5の温度が設定温度40℃よりも低いときはヒータ1も同時に通電し、高いときはヒータ1は通電せずにモータ1のみ通電する。この間欠運転は、使用者が回転ドラム2の蓋をあけることにより終了する。

発明の効果

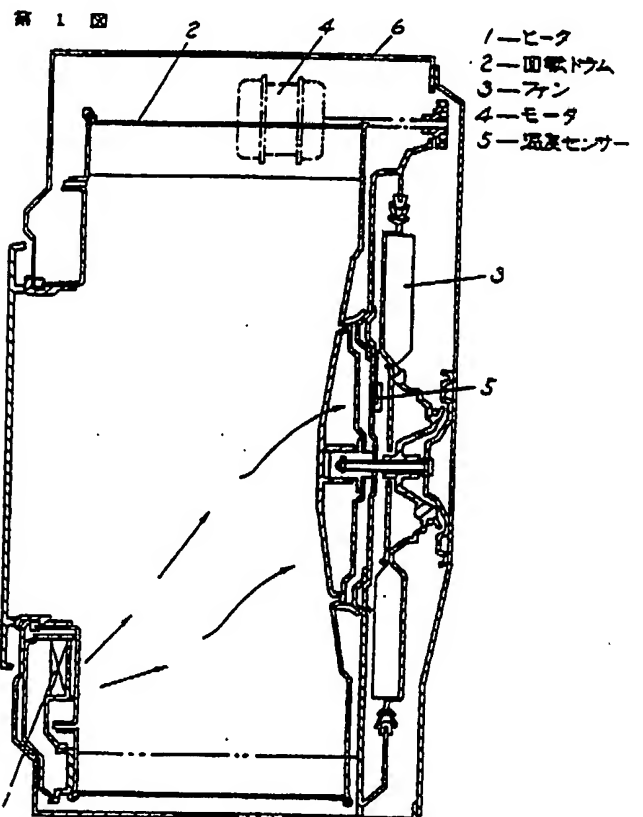
前記実施例の説明より明らかなように本発明においては、使用者が衣類を保温させたい場合、そのコースを選択することによって、あたためた衣類が取り出せることが可能となる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の衣類乾燥機の縦断面図、第2図は同衣類乾燥機の温度センサーの時間変化を示したグラフである。

1……ヒータ、2……回転ドラム、3……ファン、4……モータ、5……温度センサー。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 氏か1名



第 2 図

